



夏期講習

中学2年 国語

必修編 補助プリント

解き方のポイント

1 何を聞かれているのか

「指し示している内容は何か」

↓ 指示語の問題

「なぜか」「理由は」

↓ 理由を問う問題

「どんな様子か」

↓ 具体的内容を問う問題など

2 どう聞かれているのか、どう答えるのか

「なぜか」

↓
s

「どんな」とか

↓
s

「どういつ」とか

↓
s

「何か」

↓
s

／
s

3 書き抜くのか、文を作るのか

① 書き抜きなさい。抜き出しなさい。

↓ 正確に、一字一句間違えないように、書き写す

② 文中の語句を用いて、書きなさい。

↓ 重要語句を用いて自分でまとめる

4 字数は何字か、句読点に入るのか

- ① 「〇字以内で答えよ」 ↓
- ② 「〇字程度で答えよ」 ↓
- ③ 「〇字で答えよ」 ↓
- ④ 句読点は、特別な指示がない限り、数に入れる。
句読点も一字と数える・指示なし ↓
句読点は含まない ↓

5 一文なのか、部分なのか

①「一文の最初の〇字を書け」

↓ から書く ×読点（、）のあとから

★一文 Ⅱ 長さに関係なく、句点（。）から句点まで

②「部分を抜き出せ」

↓ 一文より長い場合も、短い場合もあるし、
文の途中で始まったり終わったりもする。

③「一文節で抜き出せ」 ↓

④「一語で抜き出せ」 ↓

解き方のポイント まとめ

1 何を聞かれているのか

2 どう聞かれているのか、どう答えるのか

「なぜか」

↓

。』

「どんなことか」

↓

。』

「何か」

↓

。』か』

。』

3 書き抜くのか、文を作るのか

4 字数は何字か、句読点に入るのか

① 「○字以内で答えよ」

↓

(

② 「○字程度で答えよ」

↓

(

③ 「○字で答えよ」

↓

(

④ 句読点は、特別な指示がない限り、数に入れる。

5 一文なのか、部分なのか

① 「一文の最初の○字を書け」

↓

(から書く

×読点(、)のあとから

② 「部分を抜き出せ」

③ 「一文節で抜き出せ」

↓

(

④ 「一語で抜き出せ」

↓

(

論説文のポイント

(1) チェックポイント

①

②

③

「人を成長させる読書」という文章のキーワード

↓

↓

↓

(2) 指示語の鉄則

①

②

③

1 白い花が咲いていた。それは、とても美しかった。

それ↓

2 平和への切なる願い。それは、人類共通の希望である。

それ↓

★ 指示語が出てきたら、すぐにチェックする

(3) 接続語

前後のつながりを考える

そして だから

順接

しかし だが

逆接

つまり 要するに

要約 いいかえ 〓 まとめ

なぜなら たとえば

説明 具体例

さて では ところで

転換 〓 段落分け

私は、国語が好きだ。(

)、数学は苦手だ。



(4) 主題

筆者が最も言いたいところ

・ () を見る

・ () を探す

・ 文章の () を見る

・ 接続語 () () に注目

人は、環境によって作られる。(A)、意識さえ持つて
いれば、環境の中で自分を変えることもできる。(B)、
自分が変われば周りが変わり、結果的に環境を変えてしま
うこともある。たとえ周りの環境が悪くても、自分がそれを
弾くだけの意志と術を心得ていれば、勝手に染められてしま
うものではない。

問1 この文章のテーマとなる語を、文中から一語で抜き出しな
さい。()

問2 ABにあてはまる語をあとから一つずつ、選びなさい。

アそして イしかし ウつまり エさて

A () B ()

問3 「それ」が指す内容を、文中の語を用いて書きなさい。

() ()

論説文ポイント まとめ

(1) チェックポイント

①

②

③

(2) 指示語の鉄則

①

②

③

★ 指示語が出てきたら、すぐにチェックする

(3) 接続語

()

() を考える

(4) 主題

筆者が最も言いたいところ

・ ()

() を見る

・ ()

() を探す

・ 文章の ()

() を見る

・ 接続語 ()

()

() に注目

小説のポイント

(1) 小説の三要素

①

(だれが)

②

(いつ・どこ)

③

(どうした)

★ いつもと違う「と」 () が起きる「と」によって

() の心情が変わっていく。

★ 設問を読んで、問われている () をチェック

するのも良い。

(2) 人物の心情

①

しかめつらのまま

↓

②

いてもたってもいられず

↓

③

「はい」と小声で言った。

↓

(3) 情景描写

- ・ 季節や時間がわかる。場所や周りの様子がわかる。
 - ・ 背景だけでなく、人物の気持ちを表すことがある。
- 太陽は赤々と燃えている。 ↓
- 冷たい月の光が僕を照らしていた。 ↓

(4) 比喻(たとえ)表現

(Ⅱ)

- 僕は、鳥になったような気分だった。 ↓
- 僕は、鳥になった気分だった。 ↓
- 木々のおしゃべりがとても心地よい。 ↓

昨日から降り続く雨は、まだ、やむ気配がなかった。私は、無雑作に、テーブルの上の携帯電話に手を伸ばした。

その時、メールが届いた。送信相手は、実家の母である。

「そうだ。今日は、私の誕生日だった。」

私は、急に母が懐かしくなって、実家に電話をかけた。

「メール、ありがとう。風邪なんて、ひいてない？」

窓をたたく雨音が、少しだけ弱くなった気がした。

問1 この場面の事件を「……」と。という形で答えなさい。

（

）

問2 この事件のあとの「私」の気持ちとして適切でないものを
あとから一つ、選びなさい。

ア 感謝 イ 郷愁 ウ 安心 エ 憂うつ

問3 この場面で、「私」の気持ちを象徴しているものを、一語で答
えなさい。

（

）

小説のポイントまとめ

(1) 小説の三要素

①

②

③

(だれが)

(いつ・どこで)

(どうした)

★

いつもと違うこと

()が起きる原因を知りたい

(

)の心情が変わっていく。

★

設問を読んで、問われている(

)にチェック

するのも良い。

(2) 人物の心情

①

②

③

(3) 情景描写

(4) 比喻表現

①

②

③

古典の基礎

歴史的仮名遣い ↓ 現代仮名遣い

1 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」 ↓ 「わ・い・う・え・お」

かほ ↓ まへ ↓ 思ひ ↓

2 「ぢ・づ」 ↓ 「じ・ず」 よろづ ↓

みぢかく ↓ すゑ ↓ せと ↓

3 「ゐ・ゑ・を」 ↓ 「い・え・お」

ゐる ↓ か・が ↓ ぐわん ↓

4 「くわ・ぐわ」 ↓ 「か・が」

くわじ ↓

5 「む」 ↓ 「ん」

ひむがし ↓

6 「ア段＋う」 ↓ 「オ段＋う」 あぶぎ ↓

まうす ↓

7 「イ段＋う」 ↓ 「イ段ゆ＋う」

うつくしう ↓ きうり ↓

8 「エ段＋う」 ↓ 「イ段よ＋う」

せうと ↓ れうり ↓

古典の基礎

問 現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|
| ① | きのふ | ② | をかし | ③ | にふだう | ④ | まゐる |
| ⑤ | しづく | ⑥ | てうし | ⑦ | さうらふ | ⑧ | けふ |
| ⑨ | きやう | ⑩ | ゆる | | | | |

- | | | | | | | | |
|---|---|--|--|--|--|--|--|
| ① | (| | | | | | |
| ② | (| | | | | | |
| ③ | (| | | | | | |
| ④ | (| | | | | | |
| ⑤ | (| | | | | | |
| ⑥ | (| | | | | | |
| ⑦ | (| | | | | | |
| ⑧ | (| | | | | | |
| ⑨ | (| | | | | | |
| ⑩ | (| | | | | | |

古典の基礎

与一、かぶらを取つてつがひ、よつぴいてひやうど放つ。小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し、あやまたずあふぎの要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。

問 次の語句を現代仮名遣いに直しなさい。

- | | | | | |
|---|------|---|---|---|
| ① | つがひ | ↓ | (|) |
| ② | ひやうど | ↓ | (|) |
| ③ | いふ | ↓ | (|) |
| ④ | ぢやう | ↓ | (|) |
| ⑤ | あふぎ | ↓ | (|) |
| ⑥ | ぎは | ↓ | (|) |

古典の基礎

歴史的仮名遣い



現代仮名遣い

1 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」



・

・

・

・

「

2 「ぢ・づ」 ↓ 「

・

「

3 「ゐ・ゑ・を」 ↓ 「

・

・

「

4 「く・わ・ぐ・わ」 ↓ 「

・

「

5 「む」 ↓ 「

「

6 「ア段＋う」 ↓ 「

段＋う

7 「イ段＋う」 ↓ 「

段

＋う

8 「エ段＋う」 ↓ 「

段

＋う

係り結びの法則

係助詞

意味

文末の形

ぞ

強意

なむ

連体形

や

疑問・反語

か

こそ

強意

已然形

例1

名をば、さぬきの造となむ、いひける。

例2

いかなる所にか、この木はさぶらひけむ。

例3

折節の移り変はるこそ、物ごとにあはれなれ。

係り結びの法則

係助詞

意味

文末の形

（	（	（	（	（
）	）	）	）	）
┐	┐	┐	┐	┐
	・			
┌	┌		┌	
已然形		連体形		

問 例を参考にして、係り結びの法則に印をしなさい。

例 名をば、さぬきの造となむ、いひける。

① 扇は空へぞ上がりける。

② 何事かありけむ。

③ 神へ参るこそ本意なれ。

係り結びの法則

「あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし。

なさけなうも討ちたてまつるものかな。」とかきくどき、

袖を顔に押しあてて、^①さめざめとぞ泣きゐたる。

やや久しうあつて、鎧直垂をとつて、首をつつまんとしけるに、

錦の袋に入れたる笛をぞ、腰にさされたる。

「あないとほし、この暁、城の内にて管弦したまひつるは、この人々にて
おはしけり。上臈は、なほもやさしかりけり。」とて、九郎御曹司の

見参に入れたりければ、これを見る人、涙を流さずといふことなし。

後に聞けば、修理大夫経盛の子息に大夫敦盛とて、

生年十七にぞなられける。

^②それよりしてこそ熊谷が発心の思ひはすすみけれ。

問1 ①②の文の係り結びの法則を説明しなさい。

① 係助詞 () 結びの語 ()

結びの活用形 () 形

② 係助詞 () 結びの語 ()

結びの活用形 () 形

問2 ①②以外に、係り結びの法則はいくつあるか。漢数字で答えなさい。

() ()

「短歌・表現技法」

1 短歌について

「五七五七七」の三十一文字 Ⅱ 定型

字余り・字足らず Ⅱ 破格

2 句切れについて

() 句切れ

() 句切れ

句切れなし

五／七／五／七／七

() 句切れ

() 句切れ

*意味の句切れるところ

*切れ字(や・かな・けり)のあと

3 修辞法

(1) 比喻 直喩・隱喩・擬人法

(2) 反復法 くりかえす

(3) 対句法 似た言葉を並べる

(4) 倒置法 順序を逆に

(5) 体言止め 名詞で止める

(6) 擬声語 音を表す